

「ノートルダム清心女子大学」 高原の美しい自然環境の中で 研修を

本保 恭子 ●ノートルダム清心女子大学

学務部長、人間生活学部教授

1 設置目的と施設の概要

ノートルダム清心女子大学・蒜山ひるぜんセミナーハウスは、1976年9月、本学の目指す全人教育の一助として、美しい自然環境の中でお互いが起居を共にしながら心身を陶冶し、研修および課外活動の成果をいっそう高めることを目的として、西の軽井沢と呼ばれる蒜山（岡山県真庭市）の地に建設された。外観は山小屋風の2階建て、研修室、厨房付食堂、洋室4、和室8、教官室3、浴室、ラウンジなどからなり、建設当初は48名の宿泊が可能であった。「このセミナーハウスに入る人が毎日の忙しい生活からしばし逃れ、都会の中で失いがちな大切なものを取り戻すことによって心の安らぎが得られるように、こ

こに数日を過ごし、ここを去る人の心に幸せがあるように」というシスターの願いが込められた厚生施設である。

その後、1981年3月に別館、同窓会山荘、テニスコートが増設され、現在は敷地面積5万5622平方メートル、研修施設2室、宿泊施設3棟、収容人数220名の施設となっている。宿泊施設として和室と洋室が設けられているが、部屋の広さによって宿泊費は異なり、学生と卒業生および教職員は1000～1500円、附属校・姉妹校の生徒等関係者は1500～2000円、一般利用者は2500～3300円と、比較的に利用しやすい料金体系になっている。

2 利用状況

(1) 大学関係者

これらの施設は、新入生合宿オリエンテーションやゼミ合宿などの教育研究のために利用されるとともに、学生、卒業生、教職員の憩いの場として活用されている。毎年、4月の入学式の翌々日からおよそ1週間、5学科の1泊2日の新入生オリエンテーションが始まる。新入生は、窓から白樺の木々を眺めながら、学科の教員や



蒜山セミナーハウス

引率の4年生の先輩から履修指導を受け、学科の特徴の説明を聞く。そして、県北のやや冷たく澄んだ空気を肌を感じながら蒜山の麓や近くの冷泉を散策し、夕食に蒜山おこわを食して親睦を図る。かつて、寒冷の年には雪が残っていて雪合戦をしたこともあるが、近年は雪だけが早く、このような自然には出合えなくなった。2018年は、セミナーハウスの桜の木に、膨らんだつぼみと

開きかけた花を見つけることができた。

蒜山セミナーハウス開設以来、初めてのことである。

5月、県南から少し遅れて新緑が最も美しい時期を迎えると、卒業生や教職員の休養と散

策、登山の足場としての利用が始まる。6月から10月にかけて、附属小学校の山の学校、姉妹中学校の林間学校、ゼミ合宿など、続けざまに予約が入る。日常の喧騒から逃れ、静寂な自然環境の中で原稿を執筆する教員もいる。卒業生が所属するサークルが天体観測に利用した年もあった。利用のほぼ8〜9割が、この期間に集中している。

(2) 「開かれた大学としてのコミュニティの場」を提供

県内外の一般利用者、福祉施設や学校関係の課外活動や教育研究の合宿地としても利用されている。毎年、カトリック関係者による研修会や黙想会、児童のソフトボール研修会などにも利用されているが、2018年の1月には、一面の雪景色の中で、延べ100名余りの保育園児のキャンプ活動が行われた。2017年は、全国高等学校総合体育大会（登山）の本部として、複数回にわたって多くの高校生や関係者に利用していただいた。

本学は、これからも「開かれた大学の蒜山セミナーハウス」として、いっそう地域社会との交流に力を注ぎ、さまざまなコミュニティの場としてこの施設を提供していきたいと考えている。

【立正大学】

豊かな自然に恵まれた 軽井沢研修所

工藤 宣弘 ● 立正大学学生部長

リゾート地として有名な軽井沢。本学の軽井沢研修所は、浅間山の南に開けた避暑地として多くの人に親しまれている、この静かな高原の町にある。周辺には白糸の滝、竜返し滝、追分宿などの名所や、美術館、文学碑などがあり、散策するのも楽しい。

ゼミナール合宿やクラブ活動、教職員などの憩いの場として広く利用されているこの研修所は、洋室3部屋、和室9部屋、定員48名、2階建てであり、森林に

囲まれたゆったりとした佇まいの中にある。また、テニスコート2面が完備しており、スポーツを楽しみ、爽やかなひと時を過ごすこともできる。夕食も楽しみのひとつで、シェフの味は格別である。近隣にはアウトレットもあり、ショッピングを楽しむことができる。





奇数月20日（年6回）刊行

●WEBサイトにて、全文無料公開中

※第324号（2009年1月発行）から

詳細は

<http://daigakujihou.shidairen.or.jp/>



第380号（2018年5月発行）

【特集】

大学図書館最新事情



【座談会】

私立大学における女性の
キャリア形成

【インタビュー】

北 義則氏（株式会社トーカ
堂代表取締役）

第381号（2018年7月発行）

【特集】

留学（海外送り出し）に伴う 問題への取り組み



【座談会】

未来を先導する私立大学の
将来像

【インタビュー】

富田 洋之氏（順天堂大学
スポーツ健康科学部准教授、
体操競技部コーチ）

第382号（2018年9月発行）

【特集】

自校史と大学博物館



【座談会】

IRの実践の現状

【インタビュー】

善竹富太郎氏（大蔵流狂
言師）

第383号（2018年11月発行）

【特集】

大学は自然災害とどう向き合うか



【座談会】

地方自治体と大学の就職
に関する協定締結による
地域活性化への期待

【インタビュー】

石村 一枝氏（株式会社石
村萬盛堂専務）